



# 栄小学校だより

令和5年3月3日（金） No.42

## ○スペシャル読み聞かせ（1年・6年）

3月2日（木）、1限目に1年生、2限目に6年生が読み聞かせボランティアさんによる「スペシャル読み聞かせ」を体験しました。1年生は、絵本の読み聞かせをしてもらった後、「あおむしおひり」を各自が作成しました。とてもかわいい作品となりました。その後、出来上がったしおりをみんなで紹介し合いました。

また、6年生は「桃太郎」のお話です。この有名な物語を様々な視点から捉え、考える内容でした。見方・考え方の違いにより、物語がかわることを学んだと思います。協力して下さったボランティアのみなさん、ありがとうございました。



## ○ドローン体験

2月28日（火）の6限目に4年生が体育館にてドローン操作体験を行いました。

このドローンは、勢州建設株式会社様より市内の子どもたちに「ドローン操縦を体験して、ドローン操縦の楽しさを感じ、興味関心を持ってもらいたい」という思いのもと、市内小中学校40校に寄贈されたものです。栄小学校にはドローン本体・送信機（操縦機）・説明書・交換部品等を12セットいただきました。この日の授業では、教室で簡単な操作のレクチャーを受けた後、体育館にて操縦体験です。何人かのグループに分けて順番に行いました。送信機をおっかなびっくりしながら操作し、ドローンを浮かせて、上下左右にコントロールをしていきました。

初めて扱う子どもたちも徐々に慣れて、上手に操作ができていました。

目を輝かせてドローンを操作している子どもたちは素敵でした。



## ○栄小学校 太陽光発電

栄小学校の校長室前にテレビ画面が設置してあるのを知っていますか？

この画面は、栄小学校体育館の南側に設置してある「太陽光発電」の状況を見る画面です。太陽光発電とテレビ画面は、平成28年3月に体育館が新しく建て替えられた時に同時に設置しました。太陽光発電ですので、天候によって発電量は変わります。テレビ画面には、現在の発電状況だけではなく、月間統計や日統計が表示されます。校長室前を通るときは、一度、足を止めて見てみましょう。



## ○ひまわり学級 調理実習

3月2日(木)の1限目・2限目にひまわり学級で調理実習を行いました。本日のメニューは、「大根お好み焼き」です。

学校菜園で栽培した大根を使っでの調理でした。調理実習前には、教室で、班分けや作業確認をしっかりと行い、家庭科室で調理開始です。ホットプレートでゆっくりと焼き上げた「大根お好み焼き」は、香ばしいとても良い香りがします。早く食べたい気持ちを抑えて、調理道具を洗浄しました。

その後、試食タイムです。お好みソースがからんで美味でした。

「学校菜園で栽培した作物を調理して食べる」ことは、地産地消で SDGsにつながります。次の調理実習が楽しみです。



## ☆特集 保護者に向けた「親塾シリーズ」 No.13

### 「アクティブリスニングのすすめ」

話を聴いてほしい子ども、話を聴かない大人。なぜ大人は子どもの話を聴かないのでしょうか？「相手を一人の人間として尊重し、話し手の声に寄り添う聴き方」のアクティブリスニングという方法があります。アクティブリスニングは「積極的傾聴」と呼ばれ、話し手の経験やそれに伴う感情・思考を無条件に受け入れ、メッセージや文脈をより深く理解するためのコミュニケーションです。

仕事や家事で忙しく、ストレスも多い中、じっくり話を聴いたり、共感したりできないというのは現実だと思います。毎日頑張っている親御さんたちにとっては仕方がないことなのです。

おすすめなのは、アクティブリスニングの時間を、短くとも積極的に確保し、毎日の生活のルーティンに取り込んでみることです。寝る前の15分、お風呂の時間、習い事の送迎時間などを利用して、その間は全力で、興味を持ってお子さんに向き合うことを習慣化してみましょ。心を通わせ合い、つながる時間は、お子さんを知る貴重な機会になります。

実際、時間の多さよりも、子どもとつながる時間を過ごすことが子どもの発達には大切であるという研究があります。例えば、長い時間をともに過ごしていたとしても、ただテレビを見て過ごすなど、言葉を交わさない時間を多く過ごした場合、子どもの学力、問題解決力、行動に悪影響があったことがわかっています。

つまり、過ごす時間の長さではなく、「話す」「子どもの好きな遊びをする」「一緒になにかを読む」など、いかに心を通わせ合う時間を過ごすかが大切なのです。そして、その工夫をして頑張っている自分自身を親御さんが認めてあげることが、子どもだけでなく親御さんの心の安定にもつながります。

子どもと過ごす時間は大切ですが、仕事のシフト時間が夜であったり、残業で遅くなったりして、顔を向き合わせることができない場合もあるでしょう。そんな時は、例えば、洗面所の鏡にメッセージを貼る、家の中の家族用のボードなどに応援の言葉を書くなど、ほかの方法で言葉を交わす習慣をつくるのがおすすめです。

「子どもの心に想いを馳せる瞬間」が、少しでも増えていくとよいですね。

話す時間を確実に持てたり、へそを向き合わせて聴いてもらったり、自分に気持ちを向けてくれているという経験の積み重ねで、子どもから話してくれるようになるかもしれません。